

童

2016 4月28日.

タンポポの咲く緑の芝生の上に鯉のぼりが風に乗って泳ぎ始めました。桜は例年よりも早く盛りを過ぎましたが、その代わり、リンゴの花が満開となりました。例年よりも、10日~2週間早く季節が進んでいます。

この時期 スロープに寝ころびながら、時にはのはな文庫のベランダから、みずぐるまの2階から眺めるこの光景は、まさに1枚の絵画か、それとも舞台の一場面を見ているようです。1年中で、一番ほのぼのとして、大地の里山を感じる美しい季節の到来です。新学期、新年度の慌ただしさの中にあっても、この光景は、ふと足を止めさせ、心身へ安らぎを与えてくれ、気持ちを落ち着けてくれます。

さて、新学期が始まり、4月が過ぎ去ろうとしています。この美しい絵画の中に、新しい子ども達、一回り大きくなった子ども達が、連日描かれていました。特に、慣らし保育1週間は、恒例通りお天気もよく、ずっと外で遊んでいました。開園して以来の大地伝統のずっと外で過ごし続ける慣らし保育。大地は楽しい所だと期待いっぱい胸を膨らませてきた**自然の一員(子どもの6つの特質の一つ)**である子どもたちにとっては、束縛されることなく、大きく受け入れてくれる大地の自然は、不安や寂しさを軽減してくれ、気持ちを穏やかにしてくれる、母親のような優しさを醸し出してくれるものです。そのお蔭で、慣らし保育初日から、薪運びデビューしながら本当に新学期とは思えないほど、穏やかでエネルギーギューな日々のスタートとなりました。この最初のインパクト、印象付けを大切に、鯉のぼりのように、大地の四季の風を受けながら、自由自在に風に対応して、躍動感あふれる大地での成長を応援していきたいと願っています。この4月は、とにかく薪運びで汗をかきました。



この「童」は、保育教育を論じたり、大地の子どもたちの今を伝えたりする紙面ではなく、青ちゃん個人の日頃の雑感や家族の事、個人的趣味特技、のめり込んでいること、危機的な事(あってほしくない、でも必要な怪我や事故からの学び!!)、そんな自分の暮らしの綴りごとですので、スロープで寝ころんで、暇つぶしに目を通して頂ければ幸いです。

【アムリトサルシーク教】

春休みに家族6人で出かけたインド旅行。年度末の巣立ちの会を終えてからあわてて準備して、1日で旅行モードに変換。こんな気楽でこんな軽量で少ない荷物、しかもサンダル履きで着替えは一組。家族を見れば、とても2週間も海外へ行く格好ではないでしょ。東京へ研修か何かで出かけるときの方が、本格的!! 成田出発前夜、高速バスで東京にこの春から住み始めた末っ子のシェアハウスの8畳ぐらいの部屋に家族全員で押しかけ、翌朝11時頃日本を旅立ちました。

もちろん、長男以外、インドは初めて。3時間の時差を越えて、夕方着。雑踏、人ごみ ゴミ 匂いなどのインドの洗礼を受けながら、あれよあれよと言う感じでインドの世界に入りました。と言っても、大勢の人以外は、すんなりすべてのものが受け入れられました。と言うのは、自分の小さい頃と変わらない生活なのです。特に、都会ではなく、田舎に興味があり、バスや移動中の光景に見とれていました。それは、まさに、「自分の暮らしは自分で受け持つこと」貧しさでそうせざるを得ない事情かもしれませんが、そんな姿に違和感を覚えず、むしろそれが懐かしく、いや親近感を覚え、そこが すんなりインドを受け入れることができた自分だったかもしれません。

IT化が進み、今後更なるコンピューターの発達で、人間の現在仕事の半分以上がコンピューターにとって代わられると言われ、職がどんどん失われるとも言われています。また、人類の歴史から見ると、過酷な労働や単純作業からの解放を願い、機械化やオートメーション化されてきた農業や生活分野はめざましいものがあります。

こんな見地から見ると、効率化されず生産性の低いインドの暮らしを見ると、何とも言えない気分、疑問を持ち続けた毎日でした。そこで、毎日、大地の暮らしと同じように、青ちゃんは、早起きして一人で、なるべく人気の少ない時間(治安はそこそこで大丈夫だと、でも人の少ない時間帯の一人歩きはやめた方がいいと長男には言われていましたが)を見つけ、暮らしを感じようと一人散歩していました。毎日宿泊場所は、街中であり、人々の日常の暮らしを感じる場所を見つけることは難しかったですが、朝のお店の準備風景、煮炊きの光景、そして、工事現場や建築現場の光景など、興味深く見て回りました。

機械を使えば、こんな苦勞せず早く、効率よくできるのに。肉体労働全開で、手作業で、コツコツやっていて、一体何年かかって完成するの? という感じ。自分の小さい時に両親や周囲の人達が農作業している時と同じ感じだと思いました。でも、しかし **何か違うんです**。陽気で明るい。おしゃべりしながら、仕事している。仕事しているのか休んでいるのか微妙にわからない雰囲気。悲壮感は感じられない。自分の小さい時の農作業も、見た目は過酷なような感じが現在の尺度からすれば思えますが、冷静に思い返せば、私達子どもは明るく楽しい毎日だったし、親も、農作業の休憩やお昼時は、お手伝いの人や親せきでワイワイ明るくおしゃべりしていました。

そして、旅の終盤に訪れたアムリトサル、シーク教徒の黄金寺院。ここで、決定的に自分の中のもやもやが晴れたのです。1日10万食の食事を、(10万人のために)無料で24時間提供をし続けるそのミッションは、5月に行われる「**聖者たちの食卓**」上映会で感じられると思います。

1日10万食ですから、お皿やスプーンなどを次から次へと列を作って24時間ひっきりなしに訪れる人へ配る、食事の仕込み、配膳、そして、何と言ってもその食器の片づけなど。それがほとんどオートメーションかされず(唯一、チャパティだけは、コンベアで作られていましたが、バターを塗ったり、出来損ないをはじくのは手作業)、全て大勢の人達が、流れ作業で行われていました。そこには、人間同士のおしゃべり、声掛け、活気、いたわり、歓迎(私達も気軽に、皿洗いやチャパティ作りなどに参加)。親睦などという言葉だけの薄っぺらなものではなく、その活気溢れる幸せな瞳輝くおしゃべりで満ちたその世界がとても豊かだったのです。

大きな食堂のように、ベルトコンベアで流し、自動食器洗浄機を導入すれば、時間も人員も、下手すれば10分の一いや100分の一で済むかもしれません。果たして、それが豊かか? テレビが、親子の大事な関わり合いや豊かな時間を奪ってしまうように、オートメーション化は、この人達の人間同士のかかわりや活気、今の人間同士の豊かさを奪ってしまうのではないかと。私は、10万人の人達のために、シーク教徒の人達が、ワイワイと活気溢れることをしている世界が羨ましく、そして、心から素敵で豊かだなあと痛感しました。この豊かな世界、空間は何か似ているなあと。それは、大地のお祭り前の朝の仕込み風景。朝早く集まって、皆でわあわあとパン生地を丸めたり、仕込みをしたりするあの感じ。

コンピューター化されようとも、大事な大切なものを失わない、盗まれないために、何よりも大切な豊かさを失わないためにも、大地は、自分の暮らしを自分で引き受ける、自分で作る豊かさを感じていける場所でありたいと願います。